

特集

美山居宅支援センターの紹介

美山居宅支援センターには介護支援専門員(ケアマネジャー)が2名常駐し、介護が必要になった方やご家族のご相談をお受けしています。

ご自宅で安心して生活を続けられるよう、心身の状態や生活環境に合わせたケアプラン(居宅サービス計画書)を作成し、必要なサービスの調整・手続きを支援しています。介護保険の申請手続きに関するご案内や、地域の医療機関・福祉施設との連携も行い、総合的な支援を目指しています。

「これからの生活に少し不安がある」

「介護について、どこに相談すればいいかわからない」

こういったお声にお応えし、利用者様やご家族の気持ちに寄り添いながら、ひとつひとつ一緒に考えていきます。(加藤)

チヨット

素敵な出会い

「二人にしておけない状況、今のオバアに一番ふさわしい介護サービスを提供して欲しい」と、長男氏よりご相談をいただいたのは今年の1月6日朝の事です。オバアこと富子さんは独居で、台所と居間が別々の部屋で暮らしていて、歩行力がないと室内移動は困難です。昨年末の厳しい寒さにより日常生活動作の失敗が続き、体中の痛みを訴える母を見た長男氏からの気づきが発端です。通所介護、通所リハ、訪問リハ、福祉用具等の介護保険サービスに加え、市外在住で脊柱管狭窄症を抱える長女氏が家事支援や受診同行等で、89歳に

なる富子さんを支えています。

富子さんの願いは「自分の事が出来ること、息子のご飯を炊くこと」等と伺いました。短期入所で疲れた体を癒し、体力や気力を回復した時期に老健での入居リハビリを行うことを提案すると、長男氏は「それでお願いしたい、家族でできることはする」と了解をいただきました。食欲もよく、体重が増えたことを確認し、老健での一回目リハを1月中旬に実施。馴染みのセラピストが富子さんの回復に尽力して下さいました。次の回復課題は何かを抽出することを目的に短期入所へ2月上旬に戻りました。施設間の移動はご家族が寄り添って下さいました。

『歩行器を使って歩きたい』という富子さんに、訪問リハや福祉用具の

担当者が上肢支持型歩行器を導入して、小さな段差を乗り越えられるか、が次の回復課題として見え、老健での二回目リハの挑戦が2月中旬に始まりました。主治医へ経過報告を行い、元来、腰痛や指先麻痺、両膝関節の固縮等があり、ご本人の努力だけでは乗り越えられない課題もあり、無理をしないように、と助言をいただきました。

3月になって短期入所へ再び戻り、歩行器を利用して現在も奮闘中です。『ジャガイモを植えるよう息子へ言つて』『春になったからカーディガンをもつてきて』と家族との繋がりを語り、『いつもお正月に来る孫にまだ会えてない』とオバア心を魅せます。困っている事の全部を解決できなくても、次は家族の事が気になりだすのはどなたも同じです。季節は冬から春へ、藤の花が咲くある日曜日の昼下がり、孫・曾孫との再会が叶いました。『オバア!!』『会いたかったヨオ!!』

オバアの肩に置かれた孫と曾孫の重なる手。



家族が思えるチヨット素敵な出会いになりますように。又、この再会が家族ができる介護のひとつと考えます。

努力の結果、この出会いを満喫された富子さんですがまだ、やらねばならないことがあります。今年初夏に誕生予定の3人目の曾孫と出会い、手を繋ぐことです。(松崎)

※個人情報掲載につきましてはご本人様・ご家族様にご了承いただいております。

活動報告

ケアマネジャーの仕事って!?

主な業務は介護が必要になっても、住み慣れた地域で暮らして行く事が出来るようお手伝いをさせて頂く事です。ご本人、ご家族など皆様からの相談から始まります。

例えば、家でお風呂に入れないという方には、日頃の暮らしぶりについて伺い、『家で気兼ねなくお風呂に入りたいたらホームヘルパーさんが良いかしら?』それとも気分転換を兼ねてデイサービスに出掛けるのはどうかしら?もしかしたら他に入れない原因があるのであれば、『一緒に考えさせて頂きます。各種介護保険事業所、地域の包括支援センター、行政、病院等と連携して、円滑な暮らしが行えるようご支援してまいります。職員一同、皆様に寄り添い、伴走して行きたいという思いで日々研鑽を積んでおります。(高梨)